治療だけでなく、生活習慣、スキンケアまで
トータルで見直し肌質改善

美容医療で肌のメンテナンスをすることは特別なことではなくなった昨今、肌治療との向き合い方もこれまでとは変わってきました。部分的な改善にとどまらず、美の総合プロデュースを得意とするTHE ROPPONGI CLINICの長尾沙也加先生に近年の肌治療の傾向について伺いました

THE ROPPONGI CLINIC
恵比寿院 代表
長尾 沙也加 先生

ながお さやか●愛知医科大学を卒業後、東京医科歯科大学医学部附属病院の関連病院である、国家公務員共済組合連合会東京共済病院と、東京医科歯科大学医学部附属病院に勤務。その後、湘南美容クリニックにて勤務を経て、ノエル銀座クリニックで研鑽を積む。2020年自身の集大成となるTHE ROPPONGI CLINICを開院。

美容医療で肌管理することは「特別なこと」ではない

――はじめに、先生が美容医療を目指したきっかけや経緯をお聞かせください。

高校生の時から自他ともに認める美容オタクで、自分の肌にとても執着していました。肌が白かったので、それでいじめられた経験も。

それをごまかすために暗めのファンデーションを塗ったり、コンプレックスをメイクで隠そうとしたり、まさに美容にのめり込んでいた感じです。

やがてコンプレックスが一つずつ解消されていくと自信がつき、人生がより楽しく感じられるようになりました。

いくら体が健康でも、心が健康でなければ人生は楽しめないことにも気づいたのです。

だからこそ、私が経験したように「心を元気にして自信を持つこと」で「人生楽しく過ごせる女性を増やしたい」と思うようになりました。

――クリニックにはどのような患者様が多く来院されますか？

「かわいい子がさらにかわいくなる」というブランディングをしているので、患者様もかわいらしい方が多いです。

施術前からとてもかわいいけれど、涙袋をもう少しふっくらさせて、肌色をあと少し明るくしたい、というミリ単位の世界ですね。

コンプレックスの解消だけでなく、メイクの延長線上の感覚だったり、メイクの手間を無くすためだったり、あるいはメンテナンスとしてなど、美容医療を楽しんでいる患者様が多い印象です。

近年、美容医療は身近なものとなり、芸能人の方でも美容医療の施術を受けていることをテレビで公言しています。でも少し前までは美容医療の施術を受けたことを公にすることは、美容の医師でさえありませんでした。

また私自身も多くの施術を経験し、受けた施術は全てインスタグラムで公開し、多くの方に見てもらうように発信を続けています。

もちろん当院だけではありませんが、このような積み重ねが、美容医療の話題がタブーではなくオープンになった一因だと自負しています。

肌だけ改善しても本当の美しさは得られない

――先生が得意とする「美の総合プロデュース」についてもお聞かせください。

美の総合プロデュースの必要性を感じたのは、世の中には「せっかく美容医療を受けたのに結果が出ていない」と話す方が多くいると感じたからです。

「方向性が定まっていなかったから整形顔になってしまった」、「周りの人がかわいいと言ってくれても自分は自分を否定している」、「知識がなく言われるがまま適切じゃない治療を続けている」など、残念な思いをされる患者様をなんとか減らしたいと思います。

心も体もキレイになる方法はたくさんあるので、当院ではそれらをできるだけ多く詰め込むつもりです。

顔だけキレイにしても、立居振る舞い・話し方・内面性・自信・ファッションなどが欠ければ美しさは成り立ちません。

美容医療でできることは外見になりますが、メンタル面のアドバイスなどはインスタグラムを使って伝えています。

クリニックでは、私の立居振る舞いや態度が悪ければ患者様に伝わってしまうので、内面の美しさについては私自身が体現できるよう、日々努力しています。

――THE ROPPONGI CLINICに来る患者様は施術内容を決めてくる方、相談して決める方どちらが多いのですか？

半々です。ただ「こうなりたい」というイメージをお持ちの患者様は意外と少なく「ここを悩んでいますが、沙也加先生はどうするのがベストだと思いますか？」とよく質問されます。

悩みをしっかり聞いて、ゴールを一緒に考えるケースが多いです。

はじめての患者さまがそのように相談してくださるのは、インスタグラムなどの発信から信頼を得ている証になりますので、とてもありがたいことです。

患者様のベストを目指し日々研鑽を重ねる

――最近はどんな肌治療が人気なのでしょうか？

肌質改善の注射系は人気ですが、当院は「シミ」「毛穴」など、一つの施術に特化しているわけではありません。患者様の理想は「すべてをなるべく早く改善する」です。

可能な限りトータルプロデュースしたいと思っているので、一つの治療をして終わりではなく、効果があると思われる治療は全て提案しますし、スキンケアや生活習慣までもご提案します。

例えば吊り目でエラ張りがお悩みだったとします。

張っているエラをボトックスで治そうとしても、眼瞼下垂が原因のエラ張りであれば、眼瞼下垂を治療しなければ十分な効果は得られません。

患者様にさまざまなご提案ができるよう、私自身も手技を増やし、足りない部分は他のドクターでも対応できるようにしています。

――他に日々の診療で心掛けていることはありますか？

「患者様のベストは本当にこれなのか」と常に問いながら施術します。ヒアルロン酸注入一つでも、ただ注入するのではなく1回1回を丁寧に。

これがベストなのか、と考えながら行うことで学びは多くなり技術の向上に直結します。

注入したら終わりではなく、患者様が長期的に良い状態が維持できているか、経過観察のためにも来院していただき、不自然さや違和感がないかをチェックすることも欠かせません。

「若いのによく開業できたね」と言われることもありますが、日々、一人一人の患者様に寄り添い、考え抜き、ベストを尽くしながら施術を続けていることで今につながっていると思います。

現代において美肌治療はスキンケアの一種で、何より美容は楽しいものです。

このことを自らモデルとしてインスタグラムで発信している以上、いただくDMなどもすべて自分で目を通しています。一貫性を持ってどの患者さんにも嘘偽りなく献身的に対応し、また応援させていただきたいと思っています。

――先生が今後の取り組みたい治療や、目標はありますか？

日本でも韓国のように肌治療、クリニックでの肌管理が当たり前になるといいですね。

最近の女性は、美容院やネイルサロンは当たり前のように毎月通っています。でも、ニキビや毛穴ができてもファンデーションで隠して済ませようとしてしまう。

そうではなく、美肌治療をしてコンプレックスを隠すメイクではなく、自分を魅せるメイクができれば人生はより楽しくなります。

クリニックでの毎月の肌管理を当たり前にし、自分の魅力を楽しむ女性が増えてほしいと思いますし、まずは私自身がそれを体現したいと思っています。

THE ROPPONGI CLINIC
恵比寿院

東京都渋谷区恵比寿南
3丁目11-14
03-5708-5413

※『自費研online』掲載記事より一部抜粋しました。全文はこちらから▶